

平成27年度 小美玉市立堅倉小学校 学校関係者評価書

小美玉市立堅倉小学校 学校関係者評価委員会

1 学校関係者評価委員会の総評

- 教師は、創意工夫をしながら教材研究に熱心に取り組み、児童に進んで関わって真剣に指導を行っている。若手教員もベテラン教員に支えられ、温かい雰囲気の中で生き生きと指導し、教師としての成長が感じられる。学力向上のための校内研修に力を入れ、互いの専門性や特性を生かして教え合い学び合いながら授業力が向上している。
- 児童の学習態度も全体的に大変落ち着いており、楽しいと感じながら学習している姿が見られた。教師と児童と一緒に学習に集中している雰囲気が感じられる。掲示されているプリントや作品、ノート等にも、児童一人一人の努力や成果が表れていた。学力面での個人差については、今後も家庭と連携しながら、地道に繰り返し個別指導を行ってほしい。
- 保護者の生活習慣が変わり、起床・就寝の時刻、食生活、言葉づかいやマナーの在り方など、学校で指導することが増えている。生活習慣と学習習慣の関連性をふまえ家庭教育の在り方についての見直しが必要である。

2 分野別評価

分野	学校の取組に関する評価と今後の改善点
学習指導の工夫改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「授業研究等に積極的に参画している教師」が94%と高く、教師の意識と授業力が向上した。その結果、「授業で『分かった・できた』と感じる児童」が87%、「書く・話し合う力がついてきたと回答する児童」が86%という結果で、教師の授業力向上が児童の学習意欲向上に表れている。今後も授業研究に意欲的に取り組み、校内研修が充実することを期待している。</li> <li>○ 茨城県学力診断のためのテスト結果では、学年や教科でのばらつきが見られた。児童の学習意欲を維持しながら、身に付けた知識や技能を活用する力の向上にも力を入れてほしい。</li> <li>○ 「家庭学習でどんなことをどのように学習したらよいか分かっている児童」が88%であった。「家庭学習の手引き」の活用や、「ノートの達人」コーナーの設置等により、家庭学習の習慣が身に付きつつある。授業においても各教科のノート指導の工夫と充実に取り組んでほしい。</li> <li>○ 児童同士が、互いに見合ったり聞き合ったりする機会をもつことは大変よい。今後も、学んだことを自分の言葉や文章、作品などの方法で、表現することを楽しめる指導に力を入れてほしい。</li> </ul>
温かな人間関係づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「学校が楽しいと回答する児童」が86%、「係・委員会活動をみんなと協力して楽しく行うことができていると回答する児童」が90%という結果から、児童が学校や学級を心の居場所と感じていることが分かる。</li> <li>○ 支持的学級風土を基盤にした授業づくりと温かな人間関係づくりは、学級経営においてどちらも欠かせない大切なものである。各教科と同様に、道徳や特別活動等においても、互いのよさを伸ばす指導を今後も継続して重視してほしい。</li> <li>○ 児童の自主的・自発的な活動が教育活動に組み入れられ、児童が自己有用感や達成感等の成功体験を味わうよい機会となっている。互いに相手の身になって考え、支え合い励まし合える実践力を高めていってほしい。</li> </ul>
家庭や地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「学校は教育活動等の様子について情報提供をしていると回答する保護者」が95%という結果から、おおむね保護者は満足していると思われる。しかし、教師から積極的に声をかけながら相談しやすい雰囲気づくりを重視し、保護者の思いや願いを受け止めていくように働きかけてもらいたい。</li> <li>○ 親子関係や家庭教育力が多様化し、格差も見られる時代である。家庭での基本的な生活習慣が児童の学習習慣に大きく影響することについての情報提供も積極的にいき、児童のよりよい成長のために、家庭での協力を呼びかけていく必要がある。</li> </ul>